課題解決型高度医療人材養成プログラム
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

［取組２］看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
（１）地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成

整理番号	１９

申請担当大学名（連携大学名）	東邦大学
事業名	都市部の超高齢社会に挑む看護師養成事業
事業責任者	看護学部長　高木　廣文

事業の概要

都市部の超高齢社会が抱える諸問題を解決できる看護師を、大学と地域が一体となって養成する事業である。病を持ってもいえで暮らし続けるための支援は、いえの中に身を置いてこそ考えられる。例えば、いえのコンセントの位置が電動ベッドの位置を決める。このような事実を知らず睡眠の大切さだけを語るということはもう終わりにしなければならない。そこで、学びのいえ（＝いえラボ）をまちに設置する。集合住宅の空き部屋を借り、仮想住人のケアを考え、療養機材の使いやすさを検証するなど、いえでの療養生活を具体的に検討できる場をつくる。看護師の学びは区民に公開し、人材交流も積極的に行いながらまちの力を強化し、シビックプライド、「まち」への誇りと愛着、を高め包括ケアの礎を築く。そして、生活に密着した看護実践者を育成し育った看護師がロールモデルとなり、指導者となって次世代の看護師を輩出する養成サイクルを目指す。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：充実を要する点等

○都市地域で、大学と地域が一体となりシビックプライドを育て、まちが家族になり「環境整備」をキーワードに支えあう仕組みづくりによる看護職養成の挑戦は優れている。
○模擬環境として「学びのいえ」をまちにつくり、小・中学校の体験授業、学部教育、大学院教育、卒後教育に活用する視点は新規性・独創性に優れている。
○ほとんどのプログラムにおいては、在宅看護を行うために必要な知識の修得過程が非常に丁寧に計画されており、その有効性が期待される。段階的に全過程を学ぶ仕組み作りを行うことで、よりその効果が高まることが期待される。
○都市部の超高齢社会が抱える諸問題を解決できる看護師の育成は重要な課題であり、このことを目標に据え、地域と人材交流しながら取り組むことは評価できる。
●多彩な教育プログラムで開設予定であるが受入れ人数が各プログラム数名である。シビックプライドを持った看護師を継続的に育てる仕組みづくりであるからには、特に卒前教育が 2 名では評価がしづらく見直しが望ましい。
●挑戦的プログラムであるが、この件に関する芽だしの実績が不明であり、実効性に課題がある。
●「いえラボ」における活動内容がわかりにくい。例えば在宅用人工呼吸器の大きさと部屋の広さとの相互性を確認するために極めて短期間、呼吸器の借用等を行うのか、又は諸物品のユニバーサルデザインの変更を提案する取り組みであるのかなど。人材養成を目的とした本事業趣旨との一致性もわかりにくい。また、年に 2 名の学生への教育のために部屋を借りることは効率性が低いと感じられる。
●達成目標として研修評価が表記されているため、事業評価を示されるとよい。
●「いえラボ」は実験や体験の場としては優れているが、地域の暮らしを支えるためには、多様な住宅環境と実際にそこで生活する人から学ぶことが効果的で重要だと思われる。
●７つの教育プログラム・コースを計画しているが、各コースの関係が明確になっておらず、また、「いえラボ」が必要な根拠も十分示されているとはいえない。